

「回紇酋長婆閏卒、姪比粟毒代領其衆、與同羅・僕固犯邊、詔左武衛大將軍鄭仁泰、爲鐵勒道行軍大總管、……將兵討之」と記し、翌二年三月の條に、「鄭仁泰等敗鐵勒於天山、鐵勒九姓聞唐兵將至、合衆十餘萬以拒之」と記せるも、全く正鵠を得たるものなりとす。

この事件と関連して考ふべきは、新唐書拔野古傳に「顯慶時與思結・僕固・同羅叛、以左武衛大將軍鄭仁泰擊之、斬其渠首」と記せることなり、此の事はかく顯慶時と記さるれども、左武衛大將軍鄭仁泰をして之を討たしめたりといへるより考ふれば、實は顯慶に次げる龍朔元年の鐵勒反亂の事件を誤りたるものなること疑無し、されば此の記事を據とすれば、此の時の叛亂には、たゞ回鶻・僕固・同羅のみならず、拔野古・思結等の部も加はりしものなることを認めざる可らず。

更に又兩唐書契苾何力傳舊卷百九 新卷百十によれば、何力も鐵勒道安撫大使として此の征伐に加はりしものなるが、舊唐書同傳には龍朔元年何力が遼東道行軍大總管として高麗を討ちしことを記せる續きに、

其年九姓叛、以何力爲鐵勒道安撫大使、乃簡精騎五百、馳入九姓中

とし、遂に之を平げたることを記し、新唐書同傳には

時鐵勒九姓叛、詔何力爲安撫大使、何力以輕騎五百、馳入其部、虜大驚、何力諭曰……九姓大喜、共擒僞葉護及特勒(勤之)等二百人以歸

と記せり。

此の如く回鶻傳及び拔野古傳に記さるゝ回鶻・僕固・同羅・拔野古・思結等の諸部の唐に對する叛亂は、本紀に